

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 2 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3871400275
事業所名	竹の園
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	小玉弘美 (ケアマネ)
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 10 日

<p>【事業所理念】</p> <p>①私達は一人一人の思いを大切に笑顔と優しさで寄り添い、出来ない事にそっと手をさしのべます。</p> <p>②私達はあなたらしさを大切に楽しみを持って生活できるよう手助けします。</p> <p>③私達は自由に選択する生活を大切にそして手助けを頼まれた時は優しく接していきます。</p> <p>④私達は家族の方が楽しく来訪し安心して帰って頂ける場所を目指します。</p> <p>⑤私達は一日を穏やかに過ごされる生活を大切にします。</p> <p>⑥私達は隣近所の付き合いを大切にします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>旧野村町の中心部から近く、田園に囲まれた閑静な場所に事業所は立地している。約2年前の豪雨災害では事業所が被災し、現在は復旧し地域の復興を目指し、利用者と一緒に明るく元気に生活を送っている。母体法人は医療機関であるため、利用者や家族には緊急時にも安心して生活が送れるほか、職員も安心して支援ができています。職員の特技を活かし、玄関先には手作りのスリッパ立てや牛乳BOX、意見箱が置かれている。職員同士の仲が良く、何でも言い合えることができ、利用者の穏やかな生活にもつながっている。</p>
---	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	コミュニケーションを図ることで、本人の希望、意向を把握するように努めている。	◎		○	日々の会話の中で、職員は利用者から外出の希望や買いたい物などの思いを聞いている。思いが伝えられない利用者には家族から確認したり、職員から声をかけ利用者の表情等をくみ取ったりするなど、思いや意向が把握できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や生活の様子から検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人、家族の思いを話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の思いは大事に記録に残している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人と職員の思いを言い合って良い方法をとっている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人や家族から話しを聞いている。			○	入居前に、職員は利用者の自宅等を訪問して、利用者や家族から情報の聞き取りをしている。また、利用者が以前に利用していた医療機関や介護サービス事業所の関係者からも情報を聞き取っている。聞き取った情報は、「西予市連携シート」の基本情報の欄に記録を残して活用している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	一人一人のできる事、出来ない事を把握している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の性格を理解し、対応している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	不安の要因が分かるように普段から関わっている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	個別の介護記録を使用し、情報把握に努めている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	何を必要としているのか話合っている。			○	月1回のケア会を通して、全ての利用者の情報をまとめて検討している。検討した内容は、「具体的個別ケア・考察・家族への報告連絡相談用紙」に記録して職員間で情報を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	生活に困らないように話し合っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	無理のないように、慣れ親しんだ暮らしや過ごし方ができるようにしている。				

愛媛県グループホーム竹の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いを大切に組み入れている。	/	/	/	職員は利用者や家族と話し合い、聞き取った意向等をもとにしてケア会で検討し、介護計画を作成している。ケア会の中では、職員から意見やアイデアは出されているが、計画の内容に反映するまでには至っていない。今後は、職員の意見やアイデアを取り入れた介護計画を作成できることを期待したい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族、職員で話をし作成している。	○	/	△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	無理のないように、慣れ親しんだ暮らしや過ごし方ができるようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族や知人の協力が必要な時にはお願いしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	個別ケア内容の把握をし、共有している。	/	/	○	利用者の介護計画の内容を一覧表にまとめ、職員がいつでも計画を確認でき、見やすいように工夫している。職員は利用者の介護計画の内容に沿った支援を実施しており、月1回のケア会でサービスの実施状況を確認している。また、個別ケア記録には、日々の支援内容や利用者の発した言葉、しぐさが記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月のケア会で検討し支援につなげている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	本人らしさを大切にして、個別に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別ケアに記入し、ケアに生かしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	状態に応じて見直しをしている。通常は3か月に1回見直しをしている。	/	/	○	介護計画は、3か月に1回見直しをしている。毎月のケア会では、各利用者の担当職員を中心に利用者の現状を報告し、職員間で話し合いをしている。要介護認定の介護度の変更があった場合や身体状況に変化があった場合には、職員が利用者や家族、関係者を交えて話し合い、現状に合った介護計画に見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングを行い、現状確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態変化に応じてモニタリングを行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的、日常的に話し合っている。	/	/	○	月1回ケア会を開催し、職員間で話し合える場を設けている。緊急案件がある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。話し合った内容は申し送りで伝えるほか、グループLINEを活用して情報を伝達することもある。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	一人一人に意見を求め、互いの気づきを共有している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	年間を通して実施日が決まっている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	欠席者には会議録を見てもらっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	個別ケアや申し送りノートを活用し、情報を共有している。	/	/	○	会議録や申し送りノートを活用し、職員は閲覧後には押印またはサインをして、情報を共有できるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	個別ケアや申し送りノートを活用し、情報を共有している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個々の要望を取り入れるようにしている。	/	/	/	職員は利用者之余暇活動の内容を決定してもらったり、入浴する順番を決めてもらったりするなど、利用者を選択肢を設け、自己決定できる機会を設けている。利用者一人ひとりの情報をもとにして、職員は利用者が不機嫌にならないように配慮し、話題提供や声かけを工夫しながら、利用者の思いや意向に沿った生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	何かを行う時には、利用者さんに選んでもらえるような声掛け支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	入居者さんの意見を確認しながら本人の状態に合わせて支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入居者さんのペースを大切にしたい支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一人一人の性格に合った声掛けをしている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や体の動きなどから把握するようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	常に相手の立場に立った行動を意識して支援している。	○	◎	○	年1回、人権や尊厳について職員間で話し合い、職員は利用者を意識した行動が取れるよう努めている。また、職員は利用者に向けた声かけを心がけ、排泄支援など、周りの他の利用者にも配慮して声かけをしている。居室に入る場合は、必ず職員は利用者へ許可をもらってから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	さりげない声掛けを行っている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入居者さんの立場になった気持ちで行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入居者さんに声掛けをしながら出入りしている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解して遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩として尊厳し、感謝の気持ちで接している。	/	/	/	気の合わない利用者同士の食卓の座席を変更したり、日中に過ごす場所を考慮したりするなど、職員はトラブルが起こらないよう努めている。余暇活動など、仲の良い利用者同士が近くに座り、気持ちよく過ごせるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者さん同士が助け合えるように支援している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	職員が間に入りながら互いに良い関係が作れるように支援している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入りながら、上手に関わりが図れるように支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム竹の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	把握した上でこれまでの関係がとぎれないように支援している。	/	/	/	/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日々の会話から把握するようにしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	自宅方面へのドライブをして、馴染みのある場所を目にする事ができるように支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気持ちの良い声掛けをしながらいつでも来てもらえる雰囲気作りをしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	可能な限り職員が付き添い屋外散歩やドライブを行っている。	○	○	○	利用者から「自宅を見たい」という希望が出され、職員と一緒に車で自宅へ行くなど、希望の外出には柔軟に対応している。日頃から、車いすの利用者も一緒に、10～20分かけてゆっくり事業所周辺を散歩している。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、利用者の買い物は中止している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	家族の協力はあるが地域の協力は無い。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	個々の状態に合わせた外出支援を行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の方に協力をお願いしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々の状態把握に努め適宜対応している。	/	/	/	余暇活動の準備は、利用者にしてもらっている。着替えや外出時の靴を履くなど時間に余裕を持たせ、利用者ができることやできそうなことは自分でしてもらい、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	その日の体調に合わせて残存機能を活用した動きを支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残存機能を生かした支援を行うように心がけている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人の楽しみや役割は何かを考えながら支援している。	/	/	/	夕食の準備の時に、職員は利用者「に「ちょっと、やってみる」と声をかけ、利用者から「してみようか」という言葉が聞かれ、役割をお願いするなど、日々の支援の中で実践している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	楽しみや役割になる事を準備している。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	できるだけ地域行事には参加している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム竹の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者さんと一緒に衣服を準備したり確認しながら整容している。				衣服等の汚れを自ら訴える利用者もおり、職員は状況に応じて、その都度着替えやおむつ交換をしている。定期的に、近隣の美容室に出かけたり、訪問理美容を活用したりして、利用者の好みの髪型等になっている。髭剃りの後、職員は利用者の剃り残しがないか確認し、ある場合には職員が支援している。剃り残しの支援などを嫌がる利用者もおり、職員が家族に協力を求め、利用者に電話をしてもらい対応すると、スムーズに行なえるようになった事例もあるなど、家族との協力体制も築けるよう取り組んでいる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者さんの希望を聞いて対応している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択ができるようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族に協力してもらい季節に合った服装ができています。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その都度さりげない対応をしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	馴染みの店を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	十分な気配りをしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者さんのペースに合わせて食べられるように工夫している。				献立は法人の栄養士が作成し、事業所に職員は利用者とは相談してアレンジしている。食材は地元のスーパーから週3回配達してもらうほか、不足している食材がある場合は、職員が買い出しに行っている。入居時に、職員は利用者アレルギーの有無や嗜好を確認し、食べられないものがある場合には、代替えの品を用意するなど、利用者ごとに対応している。事業所で収穫した野菜や職員がその日に持ってきた旬の野菜を使用し、利用者の希望も取り入れ、当日にメニューを変更する場合もある。昼食と夕食は、調理専門の職員が調理している。食器類は、入居時に持参した物を使用してもらい、破損や利用者の身体状況が変化した場合には、事業所が利用者に合わせて物を用意している。職員は、利用者と一緒に食卓を囲んで雑談をしながら食事を摂っており、必要に応じて、食事介助や支援をしている。日中、利用者のほとんどがリビングで過ごしていることもあり、調理の匂いや音を感じたり、調理やおやつ作りを手伝ったりすることもできている。また、治療食や食事内容は、法人の栄養士等にいつでも相談することができる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事の下ごしらえなどを行ってもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	テーブル拭きやテーブル上の片づけなど、できる事をしてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好き嫌いに対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の旬な物や懐かしい物が食べられるようにしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ミキサー食、トロミ食、刻み食などの人に合った調理方法である。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個々に合った物を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に頂きながらサポートしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	献立の説明などの会話をしている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	献立は栄養士が立てている。水分は十分に摂取できる時間もとれている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事形態を変えたり好みの物を食べてもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士の献立にそって調理している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具は熱湯処理、食材は加熱、まな板フキンなどはハイター消毒を行っている。				

愛媛県グループホーム竹の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解している。				入居時に、職員は利用者の義歯の有無や、かかりつけの歯科医を確認している。毎食後に職員は利用者へ声をかけ、口腔ケアを実施しているが、利用者自身で歯磨きをしている利用者の口腔内の健康状態までは把握できていないため、職員は、口腔内の重要性を再認識し、定期的に利用者一人ひとりの口腔内が確認できるよう検討することを望みたい。異常が見られた場合には、歯科医への受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後口腔ケアの声掛け支援を行い、把握するようにしている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医からその人に必要な口腔ケアの指導を受けて実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後義歯を洗浄し、週1回はボリデント消毒をしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	個々に必要な声掛け介助を行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	必要に応じて歯科受診をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	定期的にトイレ誘導を行い、自立した排泄ができるように支援している。				時間を見て職員は利用者のトイレ誘導を行い、排泄支援をしているため失禁する利用者は少ない。利用者の状況に応じて、尿取りパッドやおむつなどの排泄用品を使用している。現在、布パンツを使用している利用者が5名いるほか、紙パンツを使用している利用者も13名いる。夜間にポータブルトイレを使用する利用者もいる。布パンツを使用していた利用者が失禁など失敗することも多くなり、失敗した物等をクローゼットに隠すことが見られたため、職員は利用者の自尊心を傷つけないように本人や家族と相談し、失禁パンツを使用することになった事例もある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分摂取や下剤の調整で便秘にならないようにしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個々の記録で把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	個々に合った支援をしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事形態や水分量をチェックしたり、運動を促す等の支援を行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄パターンを把握して、声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄状態を職員で話し、本人家族にも相談して必要な物を使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の状態を把握して使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘改善になる食物を摂取してもらったり、適度な運動をしてもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	基本的な曜日と時間は決まっているが、希望により変更し柔軟な対応をしている。	◎		○	利用者は、週2回、午後から入浴することができる。入浴日は事前に職員が決めているが、利用者のその日の状態や希望を聞きながら、入浴日をずらすなど、臨機応変に対応している。以前は夜間に入浴を希望する利用者があり、職員は対応していたが、現在は希望する利用者はいない。入浴する順番など、その日の利用者の希望に応じて対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	ゆっくりと入浴できるように配慮している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	更衣や洗身など、できることはやってもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間をおいて声掛けはするが、無理強いはしない。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェック、水分補給をしている。				

愛媛県グループホーム竹の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の記録で把握している。	/	/	/	入居前から眠剤を使用している利用者が6名いる。日中、職員は利用者の活動量を増やし、安眠できるよう努めている。夜間寝つきが悪かったり、眠れない利用者には、暖かい飲み物を提供したり、居室で職員がマッサージや背中をさすったりするなど、眠れるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を工夫し夜間良眠につなげている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	状態によっては医師に相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由に自室で休む事は出来る。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望ある時には対応している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	要望ある時には対応している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望ある時には対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	要望に応じてお礼の電話をかけている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には了解をとり気兼ねなく電話をさせている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	所持金は家族の確認をとり、最小限度の現金しか持たれてない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望あれば本人と一緒に買い物を行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	安心して買い物ができるように配慮している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん、家族と相談をしての対応をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	月1回家族に確認をもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その都度ニーズに応じて対応している。	◎	/	◎	利用者から、「自宅を見たい」という希望が出されれば、職員と一緒に自宅まで行けるよう支援している。職員が同行支援して利用者の受診に対応することもあるなど、利用者や家族の希望に応じて、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入りできるようにしている。	◎	◎	○	玄関入口は極力ものをおかず、整理されている。玄関先には、職員が手作りした牛乳BOXや意見箱が設置され、家庭的な雰囲気のある空間となっている。玄関に入って正面には、事業所が豪雨災害で被災し、浸水した時間で止まっている時計がかけられてあり、水害を風化させないようにしている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	食卓やホールには花を飾り、壁にはそれぞれの作品を飾っている。		◎	◎	○ 秋祭りの時期に合わせ、玄関先には手作りの神輿やさい銭箱などの作品が展示されている。事業所の至るところに職員が持ってきた季節の生花が飾られ、利用者や来訪者は季節を感じることができる。リビングは整理整頓され、清掃も行き届いている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清潔が保てるように、整理整頓清掃に気を付けている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じるような環境づくりを工夫している。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	思い思いに過ごせるように配慮している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンもあり、二重の扉がある。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みの家財を持ち込まれている。	◎			○ 居室には自宅から馴染みのものを持ち込むことができ、仏壇や家族の写真を持ってきている利用者もいる。居室の押し入れには、自宅から持参した洋服や小タンスなどが置かれてあった。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	安全な歩行ができるように所々に手すりがある。			○	○ 居室入口には手作りの表札が置かれ、利用者自身が自室を認識しやすいようにしている。また、廊下などには手すりをつけられ、利用者が安全に歩行できるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱を起こす物は見えない場所に保管している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	すぐに手にして利用できるものも沢山ある。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解できている。	◎	◎	◎	代表者と全ての職員は、玄関や各ユニットの出入口等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中、玄関等の施錠はしておらず、防犯のため、19時から6時までは施錠している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	施錠はしていないが要望のある家族がいたら話合って対応している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	様子を把握しながら帰宅願望の強い方には気配りしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	基本情報や個別ケア記録などで把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	小さな変化にも気を配り、記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事はすぐに協力病院に連絡して指示をもらい対応している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	入居前からのかかりつけの病院に継続して受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	職員が通院介助をしているが、町外の病院介助は家族が行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要に応じて家族への連絡、相談をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院生活がスムーズにいけるようにできるだけの情報提供はしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院側と連絡を取りながら早期退院ができるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃から連携は図れている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	医療連携NSとの連携体制はある。週1回のNSの訪問もある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間対応の体制となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝のバイタルチェックから始まり、状態変化に対応できる体制がある。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬情チェックを行い、個々の内服薬を把握できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬箱を工夫している。声を出して服薬介助を行い、誤薬がないように取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	気が付くことがあれば医療機関に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	十分に注意をして変化が見られた時には医療機関に連絡、相談をしている。				

愛媛県グループホーム竹の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態に応じて医師又は看護師から説明をして頂き、対応方針をその都度確認している。	/	/	/	重度化や終末期の過ごし方について、状態に変化があった場合には、その都度、利用者や家族、医療関係者と職員が話し合い、今後どうするかを方針を決めて支援している。事業所では看取りの経験もあり、希望される利用者や家族がいれば、可能な限り対応することができる。また、事業所では、母体法人の医療機関等と連携が取れており、緊急時にも迅速に対応できるなど、利用者や家族は安心して生活を送ることができる。月2回母体法人の医師の訪問のほか、週1回看護師も訪問があり、職員にも安心感を持って支援することができる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員には変化に応じて対応の説明を行い、意見交換を行っている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の力量を把握し、見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	状態の段階によって適宜説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療連携と家族にも協力してもらいながらの体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	こちらから不安に思われていることがないか、聞きながら受け入れるようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	順次勉強会に参加し、予防対策に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルもあり、職員間で確認し合いながら対応している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ネットで市内の最新情報が収集できるようになっている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	毎日ネットで情報収集をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	常日頃から声を掛け合っては気を付けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	情報提供だけでなく、日常会話もできる関係作りができています。				年1回、家族会を開催し、家族との交流や信頼関係が図れるよう努めている。日常の事業所の行事等は案内までは家族にしていけない状況で、参加協力は得られていない。行事前に家族の面会があれば、声かけをするようにしている。地元に住む家族が月1回程度面会に来られ、面会時には行事の時に撮影した写真などを手渡し、利用者の状況の報告を兼ねて、意見や希望など聞くようにしている。県外の家族には、タブレットを活用して映像での通話を行い、利用者の状況を報告している。現在、事業所では広報誌を作成する職員がおらず、事業所の運営上の事柄や出来事については家族に周知ができていない。今後は、事業所の広報誌を作成するなど、家族に運営上の事柄等の周知方法を検討することを望みたい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には居室でゆっくりと話ができるようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	散歩や外出をお願いすることはある。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	行事の写真を家族に送ったり、タブレットを活用してビデオ通話をしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の方の話を傾聴し対応している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症進行に伴う行動障害について丁寧な説明をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時や文章を出して連絡している。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年1回ですが、家族会で交流が図れるようにしている。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	契約時に行っているが、状態変化に伴うリスクの説明をしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	来訪時には積極的に声を掛けるようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明を行っている。変更ある時にはその都度文章を作成してサインをもらっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居の理由をしっかりと説明し、納得していただいている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金の改定がある時には、理解した上でサインをいただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を行い、理解を図っている。	/	◎	/	事業所前の近隣住民とは長い付き合いになっており、散歩の途中など声をかけてもらっている。利用者と一緒に地域のお祭りなどの行事に参加している。約2年前の豪雨災害で被災した時には、近隣住民等と「お互い頑張ろう」と相互に声をかけ合い、励まし合い絆は深まっている。事業所として、町内会や自治会への参加ははしておらず、今後はより多くの地域住民とつながりを持ち、強固にできるよう検討することを望みたい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事には積極的に参加している。	/	△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議を通して少しずつ交流が増えている。	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近所の方や散歩途中の方が立ち寄りやすくなる。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるなど、日常的なおつきあいをしている。	○	限られた方にはなるが、お付き合いはある。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	子供達の訪問の機会はある。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域行事への参加はしているが、地域資源を利用した関わりは気薄である。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域のお店を利用したり、施設の利用もして関係をとぎらせないようにしている。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	メンバーはほとんど同じ方ですが参加がある。	/	×	○	運営推進会議は、利用者や家族のほか、近隣住民、警察官、民生委員、市担当者、同法人の他のグループホームの職員などが参加して開催している。会議に家族の参加はあるものの、固定化している。会議では、サービスの実際や評価への取組みについて報告はしているが、参加者に内容が確実に伝わっているかまでの確認には至っていない。今後は、家族や地域住民等に会議の意義や内容を分かりやすく説明し、理解をもらえるよう工夫を期待したい。現在はコロナ禍のため、書面等での会議の実施となっている	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	○	写真入りの文章を作成して報告をしている。	/	/	○		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見等はスタッフ会で報告し、日々の取組みやサービス向上に生かせるように話し合っている。	/	△	△		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	次回はこのような内容で行いますと案内をしている。	/	/	○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関に閲覧できるように掲示している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念を掲示し、意識しながら動けるように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念を共有スペースに掲示している。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	理念を意識しながら動けるように努めている。				月2回、医師である代表者は、利用者の往診など事業所を訪問し、職員と気軽に話ができる環境をつくっている。代表者と話せない場合には、管理者等を通じて法人の事務長に伝えることもできるほか、法人の幹部会や主任会で意見を伝えることもできる。職員は希望休等も取りやすく、職員不足は解消し、働きやすい職場環境となっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	各自目標を立て、その目標達成の具体的な計画を考え、評価をしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は一人一人の意見を聞く体制が整っている。日頃から現場に来て、声を掛けられている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	南予地区GHの研修会に参加している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員一人一人に声を掛け、相談を受け入れる体制作りができています。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	普段から身体拘束について話し、理解している。				虐待防止等の勉強会を実施し、代表者と全ての職員は虐待や不適切なケアについて理解している。職員同士の仲も良く、職員が発した言葉が不適切だと感じた場合には、職員同士で注意し合える環境となっている。注意できなかった場合には管理者に報告し、管理者が個別に確認し、指導する体制を取っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りやケア会で話している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	普段から職員同士で注意を払っている。身体的変化の早期発見、ヒヤリハット、事故報告を行っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	積極的にコミュニケーションを図っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	普段から身体拘束について話し、理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会やケア会で話し合う機会を設けている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	その都度対応し理解を得ている。				

愛媛県グループホーム竹の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	制度の存在は知っているが、理解できている職員は少ない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	現在は対象者がいないが、以前に情報提供や相談にのった事はある。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要時には十分な連絡体制をとる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	順次勉強会に参加している。医療連携NSから指導を受けている。定期的には行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	その都度話し合いの場を設け、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入居者の状態を把握し、その都度危険やリスクについて話合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった際には、職員間で共有し対応方法について話合っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	必要時はマニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった時に速やかに話し合い対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常の会話の中で、さりげなく聞くようにしている。			○	日常の生活の中で、職員は利用者からの意見や要望を聞いている。家族には、面会や電話連絡時に、意見や要望を聞いている。玄関先に意見箱を設置しているが、苦情や要望はほとんど出されない。職員は直接管理者と話す機会を設けており、意見や要望を伝えることはでき、普段から職員の意見もよく出されている。最近では、換気のため窓を開けると虫が入るため、「網戸を取り付けてほしい。」という意見が出され、可能な限り対応している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会に来られた時に積極的に声を掛け話している。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	電話や面会時に対応している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運ばれたらコミュニケーションをとられている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場に入る事も多く、意見を聞く機会が多い。				

愛媛県グループホーム竹の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	行っている。				外部評価のサービスの評価結果と目標達成計画について、運営推進会議の中で報告はしているが、事業所の取組みのモニターまでではお願いできていない。事業所からの報告だけでなく、参加者に目標達成計画の進行状況を確認してもらうなど、今後の取組みについて、家族や地域住民に事業所のモニターをしてもらえるよう検討することを望みたい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題について意識統一して取り込むように努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で報告している。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	随時、経過報告をしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知している。				事業所として災害には非常に関心が高く、母体法人や地元消防団、市消防署との協力体制を構築している。近隣住民は日中仕事で不在が多く、高齢者も多いため、協力を得ることは難しい。今後は顔馴染みとなる近隣住民を増やし、災害時の協力体制が得られるような取組みを期待したい。また、約2年前の豪雨災害時には、利用者は避難して無事であったが事業所は被災し、近隣住民と声をかけ合い、励まし合うなどの協力が取れている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	近隣の方は日中は就労されており、在宅におられるのは高齢者なので連携をとるのは難しい。	○	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	近隣のGHとの共同訓練の計画はある。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	広報活動を行っている。				近隣住民から相談があれば、その都度対応をしている。地域イベントには参加しているが、近隣に高齢者福祉施設や地域包括支援センターもあり、地域活動の協働までには至っていない。法人全体で協力し、少しでも地域のケア拠点として機能を果たしていけるよう検討することを望みたい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	随時対応している。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実践の受け入れに協力している。	○	職場体験の受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域イベントには参加するようにしている。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 2 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3871400275
事業所名	竹の園
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	小玉弘美 (ケアマネ)
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 10 日

<p>【事業所理念】</p> <p>①私達は一人一人の思いを大切に笑顔と優しさで寄り添い、出来ない事にそっと手をさしのべます。</p> <p>②私達はあなたらしさを大切に楽しみを持って生活できるよう手助けします。</p> <p>③私達は自由に選択する生活を大切にそして手助けを頼まれた時は優しく接していきます。</p> <p>④私達は家族の方が楽しく来訪し安心して帰って頂ける場所を目指します。</p> <p>⑤私達は一日を穏やかに過ごされる生活を大切にします。</p> <p>⑥私達は隣近所の付き合いを大切にします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>旧野村町の中心部から近く、田圃に囲まれた閑静な場所に事業所は立地している。約2年前の豪雨災害では事業所が被災し、現在は復旧し地域の復興を目指し、利用者と一緒に明るく元気に生活を送っている。母体法人は医療機関であるため、利用者や家族には緊急時にも安心して生活を送れるほか、職員も安心して支援ができています。職員の特技を活かし、玄関先には手作りのスリッパ立てや牛乳BOX、意見箱が置かれている。職員同士の仲が良く、何でも言い合えることができ、利用者の穏やかな生活にもつながっている。</p>
---	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>日々の会話から思いや希望を聞き、意向の把握に努めている。</p> <p>日々の生活から把握している。</p> <p>面会時を利用して話しをしている。</p> <p>個別ケアに記録して共有している。</p> <p>本人の訴えや話をよく聞き、見落としのないように留意している。</p>	◎	/	○	<p>日々の会話の中で、職員は利用者から外出の希望や買いたい物などの思いを聞いている。思いが伝えられない利用者には家族から確認したり、職員から声をかけ利用者の表情等をくみ取ったりするなど、思いや意向が把握できるよう努めている。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>家族・親戚より話しを聞き把握している。</p> <p>一人一人の状態やできる事、出来ない事の把握をしている。</p> <p>会話をしたり寄り添う事で把握している。</p> <p>日々の生活記録により把握に努めている。</p> <p>個別ケア、生活記録により把握している。</p>	/	/	○	<p>入居前に、職員は利用者の自宅等を訪問して、利用者や家族から情報の聞き取りをしている。また、利用者が以前に利用していた医療機関や介護サービス事業所の関係者からも情報を聞き取っている。聞き取った情報は、「西予市連携シート」の基本情報の欄に記録を残して活用している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>把握した情報はケア会で検討している。</p> <p>本人の意向を検討し支援している。</p> <p>本人の意向を聞き支援している。</p>	/	/	○	<p>月1回のケア会を通して、全ての利用者の情報をまとめて検討している。検討した内容は、「具体的個別ケア・考察・家族への報告連絡相談用紙」に記録して職員間で情報を共有している。</p>

愛媛県グループホーム竹の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向をケアに取り入れている。	/	/	/	職員は利用者や家族と話し合い、聞き取った意向等をもとにしてケア会で検討し、介護計画を作成している。ケア会の中では、職員から意見やアイデアは出されているが、計画の内容に反映するまでには至っていない。今後は、職員の意見やアイデアを取り入れた介護計画を作成できることを期待したい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	月1回のモニタリングをしてケアに反映している。	○	/	/	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族から話しを聞きケアに取り入れている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	必要な時は家族、シルバー人材センターにお願いしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月のケア会で共有している。	/	/	/	利用者の介護計画の内容を一覧表にまとめ、職員がいつでも計画を確認でき、見やすいように工夫している。職員は利用者の介護計画の内容に沿った支援を実施しており、月1回のケア会でサービスの実施状況等を確認している。また、個別ケア記録には、日々の支援内容や利用者の発した言葉、しぐさが記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月のケア会で検討して支援している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別ケアに記録している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別ケアに記録してケアにつなげている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月に一度見直しをしている。	/	/	/	介護計画は、3か月に1回見直しをしている。毎月のケア会では、各利用者の担当職員を中心に利用者の現状を報告し、職員間で話し合いをしている。要介護認定の介護度の変更があった場合や身体状況に変化があった場合には、職員が利用者や家族、関係者を交えて話し合い、現状に合った介護計画に見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングを行い確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態が変化した時には見直しをしている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月行っているが、緊急時にはその都度話合っている。	/	/	/	月1回ケア会を開催し、職員間で話し合える場を設けている。緊急案件がある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。話し合った内容は申し送りで伝えるほか、グループLINEを活用して情報を伝達することもある。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	一人一人の意見を聞き、意見交換をしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	年間を通して日程を決めている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	会議記録を見てもらっている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	申し送りノート、個別ケア記録を活用して共有している。	/	/	/	会議録や申し送りノートを活用し、職員は閲覧後には押印またはサインをして、情報を共有できるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノート、個別ケア記録を活用して共有している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個々の要望を取り入れるようにしている。	/	/	/	職員は利用者之余暇活動の内容を決定してもらったり、入浴する順番を決めてもらったりするなど、利用者を選択肢を設け、自己決定できる機会を設けている。利用者一人ひとりの情報をもとにして、職員は利用者が不機嫌にならないように配慮し、話題提供や声かけを工夫しながら、利用者の思いや意向に沿った生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	何かを行う時には、利用者さんに選んでもらえるような声掛け支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	入居者さんの意見を確認しながら本人の状態に合わせて支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入居者さんのペースを大切にしたい支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一人一人の性格に合った声掛けをしている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や体の動きなどから把握するようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	常に相手の立場に立った行動を意識して支援している。	○	◎	○	年1回、人権や尊厳について職員間で話し合い、職員は利用者を意識した行動が取れるよう努めている。また、職員は利用者に向けた声かけを心がけ、排泄支援など、周りの他の利用者にも配慮して声かけをしている。居室に入る場合は、必ず職員は利用者へ許可をもらってから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	さりげない声掛けを行っている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入居者さんの立場になった気持ちで行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入居者さんに声掛けをしながら出入りしている。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解して遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩として尊厳し、感謝の気持ちで接している。	/	/	/	気の合わない利用者同士の食卓の座席を変更したり、日中に過ごす場所を考慮したりするなど、職員はトラブルが起こらないよう努めている。余暇活動など、仲の良い利用者同士が近くに座り、気持ちよく過ごせるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者さん同士が助け合えるように支援している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	職員が間に入りながら互いに良い関係が作れるように支援している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入りながら、上手に関わりが図れるように支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム竹の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	把握した上でこれまでの関係がとぎれないように支援している。	/	/	/	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日々の会話から把握するようにしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	自宅方面へのドライブをして、馴染みのある場所を目にする事ができるように支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気持ちの良い声掛けをしながらいつでも来てもらえる雰囲気作りをしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	可能な限り職員が付き添い屋外散歩やドライブを行っている。	○	○	○	利用者から「自宅を見たい」という希望が出され、職員と一緒に車で自宅へ行くなど、希望の外出には柔軟に対応している。日頃から、車いすの利用者も一緒に、10～20分かけてゆっくり事業所周辺を散歩している。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、利用者の買い物は中止している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力が得ながら、外出支援をすすめている。	×	家族の協力はあるが地域の協力は無い。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	個々の状態に合わせた外出支援を行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の方に協力をお願いしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々の状態把握に努め適宜対応している。	/	/	/	余暇活動の準備は、利用者にしてもらっている。着替えや外出時の靴を履くなど時間に余裕を持たせ、利用者ができることやできそうなことは自分でしてもらい、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	その日の体調に合わせて残存機能を活用した動きを支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残存機能を生かした支援を行うように心がけている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人の楽しみや役割は何かを考えながら支援している。	/	/	/	夕食の準備の時に、職員は利用者「に「ちょっと、やってみる」と声をかけ、利用者から「してみようか」という言葉が聞かれ、役割をお願いするなど、日々の支援の中で実践している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	楽しみや役割になる事を準備している。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	できるだけ地域行事には参加している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム竹の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者さんと一緒に衣服を準備したり確認しながら整容している。				衣服等の汚れを自ら訴える利用者もおり、職員は状況に応じて、その都度着替えやおむつ交換をしている。定期的に、近隣の美容室に出かけたり、訪問理美容を活用したりして、利用者の好みの髪型等になっている。髭剃りの後、職員は利用者の剃り残しがないか確認し、ある場合には職員が支援している。剃り残しの支援などを嫌がる利用者もおり、職員が家族に協力を求め、利用者に電話をしてもらい対応すると、スムーズに行なえるようになった事例もあるなど、家族との協力体制も築けるよう取り組んでいる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者さんの希望を聞いて対応している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択ができるようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族に協力してもらい季節に合った服装ができています。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その都度さりげない対応をしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	馴染みの店を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	十分な気配りをしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者さんのペースに合わせて食べられるように工夫している。				献立は法人の栄養士が作成し、事業所に職員は利用者とは相談してアレンジしている。食材は地元のスーパーから週3回配達してもらうほか、不足している食材がある場合は、職員が買い出しに行っている。入居時に、職員は利用者アレルギーの有無や嗜好を確認し、食べられないものがある場合には、代替えの品を用意するなど、利用者ごとに対応している。事業所で収穫した野菜や職員がその日に持ってきた旬の野菜を使用し、利用者の希望も取り入れ、当日にメニューを変更する場合もある。昼食と夕食は、調理専門の職員が調理している。食器類は、入居時に持参した物を使用してもらい、破損や利用者の身体状況が変化した場合には、事業所が利用者に合わせて物を用意している。職員は、利用者と一緒に食卓を囲んで雑談をしながら食事を摂っており、必要に応じて、食事介助や支援をしている。日中、利用者のほとんどがリビングで過ごしていることもあり、調理の匂いや音を感じたり、調理やおやつ作りを手伝ったりすることもできている。また、治療食や食事内容は、法人の栄養士等にいつでも相談することができる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事の下ごしらえなどを行ってもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	テーブル拭きやテーブル上の片づけなど、できる事をしてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好き嫌いに対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の旬な物や懐かしい物が食べられるようにしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ミキサー食、トロミ食、刻み食などの人に合った調理方法である。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個々に合った物を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に頂きながらサポートしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	献立の説明などの会話をしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	献立は栄養士が立てている。水分は十分に摂取できる時間もとれている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事形態を変えたり好みの物を食べてもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士の献立にそって調理している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具は熱湯処理、食材は加熱、まな板フキンなどはハイター消毒を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解している。				入居時に、職員は利用者の義歯の有無や、かかりつけの歯科医を確認している。毎食後に職員は利用者に声をかけ、口腔ケアを実施しているが、利用者自身で歯磨きをしている利用者の口腔内の健康状態までは把握できていないため、職員は、口腔内の重要性を再認識し、定期的に利用者一人ひとりの口腔内が確認できるよう検討することを望みたい。異常が見られた場合には、歯科医への受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後口腔ケアの声掛け支援を行い、把握するようにしている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医からその人に必要な口腔ケアの指導を受けて実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後義歯を洗浄し、週1回はポリデント消毒をしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	個々に必要な声掛け介助を行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	必要に応じて歯科受診をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	定期的にトイレ誘導を行い、自立した排泄ができるように支援している。				時間を見て職員は利用者のトイレ誘導を行い、排泄支援をしているため失禁する利用者は少ない。利用者の状況に応じて、尿取りパッドやおむつなどの排泄用品を使用している。現在、布パンツを使用している利用者が5名いるほか、紙パンツを使用している利用者も13名いる。夜間にポータブルトイレを使用する利用者もいる。布パンツを使用していた利用者が失禁など失敗することも多くなり、失敗した物等をクローゼットに隠すことが見られたため、職員は利用者の自尊心を傷つけないように本人や家族と相談し、失禁パンツを使用することになった事例もある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分摂取や下剤の調整で便秘にならないようにしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個々の記録で把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々に合った支援をしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事形態や水分量をチェックしたり、運動を促す等の支援を行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄パターンを把握して、声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄状態を職員で話し、本人家族にも相談して必要な物を使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の状態を把握して使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘改善になる食物を摂取してもらったり、適度な運動をしてもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	基本的な曜日と時間は決まっているが、希望により変更し柔軟な対応をしている。	◎		○	利用者は、週2回、午後から入浴することができる。入浴日は事前に職員が決めているが、利用者のその日の状態や希望を聞きながら、入浴日をずらすなど、臨機応変に対応している。以前は夜間に入浴を希望する利用者があり、職員は対応していたが、現在は希望する利用者はいない。入浴する順番など、その日の利用者の希望に応じて対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	ゆつくりと入浴できるように配慮している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	更衣や洗身など、できることはやってもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間をおいて声掛けはするが、無理強いはしない。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェック、水分補給をしている。				

愛媛県グループホーム竹の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の記録で把握している。	/	/	/	入居前から眠剤を使用している利用者が6名いる。日中、職員は利用者の活動量を増やし、安眠できるよう努めている。夜間寝つきが悪かったり、眠れない利用者には、暖かい飲み物を提供したり、居室で職員がマッサージや背中をさすったりするなど、眠れるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を工夫し夜間良眠につなげている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	状態によっては医師に相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由に自室で休む事は出来る。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望ある時には対応している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	要望ある時には対応している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望ある時には対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	要望に応じてお礼の電話をかけている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には了解をとり気兼ねなく電話をさせている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	所持金は家族の確認をとり、最小限度の現金しか持たれてない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望あれば本人と一緒に買い物を行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	安心して買い物ができるように配慮している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん、家族と相談をしての対応をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	月1回家族に確認をもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その都度ニーズに応じて対応している。	◎		◎	利用者から、「自宅を見たい」という希望が出されれば、職員と一緒に自宅まで行けるよう支援している。職員が同行支援して利用者の受診に対応することもあるなど、利用者や家族の希望に応じて、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入りできるようにしている。	◎	◎	○	玄関入口は極力ものをおかず、整理されている。玄関先には、職員が手作りした牛乳BOXや意見箱が設置され、家庭的な雰囲気のある空間となっている。玄関に入って正面には、事業所が豪雨災害で被災し、浸水した時間で止まっている時計がかけられてあり、水害を風化させないようにしている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	食卓やホールには花を飾り、壁にはそれぞれの作品を飾っている。		◎	◎	○ 秋祭りの時期に合わせ、玄関先には手作りの神輿やさい銭箱などの作品が展示されている。事業所の至るところに職員が持ってきた季節の生花が飾られ、利用者や来訪者は季節を感じることができる。リビングは整理整頓され、清掃も行き届いている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清潔が保てるように、整理整頓清掃に気を付けている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じるような環境づくりを工夫している。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	思い思いに過ごせるように配慮している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンもあり、二重の扉がある。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みの家財を持ち込まれている。	◎		○	居室には自宅から馴染みのものを持ち込むことができ、仏壇や家族の写真を持ってきている利用者もいる。居室の押し入れには、自宅から持参した洋服や小タンスなどが置かれてあった。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	安全な歩行ができるように所々に手すりがある。			○	居室入口には手作りの表札が置かれ、利用者自身が自室を認識しやすいようにしている。また、廊下などには手すりをつけられ、利用者が安全に歩行できるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱を起こす物は見えない場所に保管している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	すぐに手にして利用できるものも沢山ある。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解できている。	◎	◎	◎	代表者と全ての職員は、玄関や各ユニットの出入口等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中、玄関等の施錠はしておらず、防犯のため、19時から6時までは施錠している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	施錠はしていないが要望のある家族がいたら話合って対応している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	様子を把握しながら帰宅願望の強い方には気配りをしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	基本情報や個別ケア記録などで把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	小さな変化にも気を配り、記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事はすぐに協力病院に連絡して指示をもらい対応している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	入居前からのかかりつけの病院に継続して受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	職員が通院介助をしているが、町外の病院介助は家族が行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要に応じて家族への連絡、相談をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院生活がスムーズにいくようにできるだけの情報提供はしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院側と連絡を取りながら早期退院ができるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃から連携は図れている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	医療連携NSとの連携体制はある。週1回のNSの訪問もある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間対応の体制となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝のバイタルチェックから始まり、状態変化に対応できる体制がある。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬情チェックを行い、個々の内服薬を把握できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬箱を工夫している。声を出して服薬介助を行い、誤薬がないように取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	気が付くことがあれば医療機関に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	十分に注意をして変化が見られた時には医療機関に連絡、相談をしている。				

愛媛県グループホーム竹の園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態に応じて医師又は看護師から説明をして頂き、対応方針をその都度確認している。	/	/	/	重度化や終末期の過ごし方について、状態に変化があった場合には、その都度、利用者や家族、医療関係者と職員が話し合い、今後どうするかを方針を決めて支援している。事業所では看取りの経験もあり、希望される利用者や家族がいれば、可能な限り対応することができる。また、事業所では、母体法人の医療機関等と連携が取れており、緊急時にも迅速に対応できるなど、利用者や家族は安心して生活を送ることができる。月2回母体法人の医師の訪問のほか、週1回看護師も訪問があり、職員にも安心感を持って支援することができる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員には変化に応じて対応の説明を行い、意見交換を行っている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の力量を把握し、見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	状態の段階によって適宜説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療連携と家族にも協力してもらいながらの体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	こちらから不安に思われていることがないか、聞きながら受け入れるようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	順次勉強会に参加し、予防対策に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルもあり、職員間で確認し合いながら対応している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ネットで市内の最新情報が収集できるようになっている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	毎日ネットで情報収集をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	常日頃から声を掛け合っては気を付けている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	情報提供だけでなく、日常会話もできる関係作りができています。	/	/	/	年1回、家族会を開催し、家族との交流や信頼関係が図れるよう努めている。日常の事業所の行事等は案内までは家族にしていけない状況で、参加協力は得られていない。行事前に家族の面会があれば、声かけをするようにしている。地元に住む家族が月1回程度面会に来られ、面会時には行事の時に撮影した写真などを手渡し、利用者の状況の報告を兼ねて、意見や希望など聞くようにしている。県外の家族には、タブレットを活用して映像での通話を行い、利用者の状況を報告している。現在、事業所では広報誌を作成する職員がおらず、事業所の運営上の事柄や出来事については家族に周知ができていない。今後は、事業所の広報誌を作成するなど、家族に運営上の事柄等の周知方法を検討することを望みたい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には居室でゆっくりと話ができるようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	散歩や外出をお願いすることはある。	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	行事の写真を家族に送ったり、タブレットを活用してビデオ通話をしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の方の話を傾聴し対応している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症進行に伴う行動障害について丁寧な説明をしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時や文章を出して連絡している。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年1回ですが、家族会で交流が図れるようにしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	契約時に行っているが、状態変化に伴うリスクの説明をしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	○	来訪時には積極的に声を掛けるようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明を行っている。変更ある時にはその都度文章を作成してサインをもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居の理由をしっかりと説明し、納得していただいている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金の改定がある時には、理解した上でサインをいただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を行い、理解を図っている。	/	◎	/	事業所前の近隣住民とは長い付き合いになっており、散歩の途中など声をかけてもらっている。利用者と一緒に地域のお祭りなどの行事に参加している。約2年前の豪雨災害で被災した時には、近隣住民等と「お互い頑張ろう」と相互に声をかけ合い、励まし合い絆は深まっている。事業所として、町内会や自治会への参加ははしておらず、今後はより多くの地域住民とつながりを持ち、強固にできるよう検討することを望みたい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事には積極的に参加している。	/	△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議を通して少しずつ交流が増えている。	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近所の方や散歩途中の方が立ち寄りやすくなる。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるなど、日常的なおつきあいをしている。	○	限られた方にはなるが、お付き合いはある。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	子供達の訪問の機会はある。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域行事への参加はしているが、地域資源を利用した関わりは気薄である。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域のお店を利用したり、施設の利用もして関係をとぎらせないようにしている。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	メンバーはほとんど同じ方ですが参加がある。	/	×	○	運営推進会議は、利用者や家族のほか、近隣住民、警察官、民生委員、市担当者、同法人の他のグループホームの職員などが参加して開催している。会議に家族の参加はあるものの、固定化している。会議では、サービスの実際や評価への取組みについて報告はしているが、参加者に内容が確実に伝わっているかまでの確認には至っていない。今後は、家族や地域住民等に会議の意義や内容を分かりやすく説明し、理解をしてもらえよう工夫を期待したい。現在はコロナ禍のため、書面等での会議の実施となっている	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	○	写真入りの文章を作成して報告をしている。	/	/	○		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見等はスタッフ会で報告し、日々の取組みやサービス向上に生かせるように話し合っている。	/	△	△		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	次回はこのような内容で行いますと案内をしている。	/	/	○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関に閲覧できるように掲示している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念を掲示し、意識しながら動けるように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念を共有スペースに掲示している。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	理念を意識しながら動けるように努めている。				月2回、医師である代表者は、利用者の往診など事業所を訪問し、職員と気軽に話ができる環境をつくっている。代表者と話せない場合には、管理者等を通じて法人の事務長に伝えることもできるほか、法人の幹部会や主任会で意見を伝えることもできる。職員は希望休等も取りやすく、職員不足は解消し、働きやすい職場環境となっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	各自目標を立て、その目標達成の具体的な計画を考え、評価をしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は一人一人の意見を聞く体制が整っている。日頃から現場に来て、声を掛けられている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	南予地区GHの研修会に参加している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員一人一人に声を掛け、相談を受け入れる体制作りができています。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	普段から身体拘束について話し、理解している。				虐待防止等の勉強会を実施し、代表者と全ての職員は虐待や不適切なケアについて理解している。職員同士の仲も良く、職員が発した言葉が不適切だと感じた場合には、職員同士で注意し合える環境となっている。注意できなかった場合には管理者に報告し、管理者が個別に確認し、指導する体制を取っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りやケア会で話している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	普段から職員同士で注意を払っている。身体的変化の早期発見、ヒヤリハット、事故報告を行っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	積極的にコミュニケーションを図っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	普段から身体拘束について話し、理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会やケア会で話し合う機会を設けている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	その都度対応し理解を得ている。				

愛媛県グループホーム竹の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	制度の存在は知っているが、理解できている職員は少ない。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	現在は対象者がいないが、以前に情報提供や相談にのった事はある。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要時には十分な連絡体制をとる。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	順次勉強会に参加している。医療連携NSから指導を受けている。定期的には行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	その都度話し合いの場を設け、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入居者の状態を把握し、その都度危険やリスクについて話合っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった際には、職員間で共有し対応方法について話合っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	必要時はマニュアルに沿って対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった時に速やかに話し合い対応している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常の会話の中で、さりげなく聞くようにしている。	/	/	○	日常の生活の中で、職員は利用者からの意見や要望を聞いている。家族には、面会や電話連絡時に、意見や要望を聞いている。玄関先に意見箱を設置しているが、苦情や要望はほとんど出されない。職員は直接管理者と話す機会を設けており、意見や要望を伝えることはでき、普段から職員の意見もよく出されている。最近では、換気のため窓を開けると虫が入るため、「網戸を取り付けてほしい。」という意見が出され、可能な限り対応している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会に来られた時に積極的に声を掛け話している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	電話や面会時に対応している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	現場に足を運ばれた後はコミュニケーションをとられている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場に入る事も多く、意見を聞く機会が多い。	/	/	○	

愛媛県グループホーム竹の園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	行っている。				外部評価のサービスの評価結果と目標達成計画について、運営推進会議の中で報告はしているが、事業所の取組みのモニターまでではお願いできていない。事業所からの報告だけでなく、参加者に目標達成計画の進行状況を確認してもらうなど、今後の取組みについて、家族や地域住民に事業所のモニターをしてもらえるよう検討することを望みたい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題について意識統一して取り込むように努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で報告している。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	随時、経過報告をしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知している。				事業所として災害には非常に関心が高く、母体法人や地元消防団、市消防署との協力体制を構築している。近隣住民は日中仕事で不在が多く、高齢者も多いため、協力を得ることは難しい。今後は顔馴染みとなる近隣住民を増やし、災害時の協力体制が得られるような取組みを期待したい。また、約2年前の豪雨災害時には、利用者は避難して無事であったが事業所は被災し、近隣住民と声をかけ合い、励まし合うなどの協力が取れている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	近隣の方は日中は就労されており、在宅におられるのは高齢者なので連携をとるのは難しい。	○	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	近隣のGHとの共同訓練の計画はある。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	広報活動を行っている。				近隣住民から相談があれば、その都度対応をしている。地域イベントには参加しているが、近隣に高齢者福祉施設や地域包括支援センターもあり、地域活動の協働までには至っていない。法人全体で協力し、少しでも地域のケア拠点として機能を果たしていけるよう検討することを望みたい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	随時対応している。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実践の受け入れに協力している。	○	職場体験の受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域イベントには参加するようにしている。			△	